

## 令和7年度 国立国語研究所 運営会議（第4回） 議事概要

日 時：令和8年2月13日（金） 15：00～17：00

場 所：Web 会議

出席者：呉人委員、小泉委員、小林委員、近藤委員、滝浦委員、田中委員、投野委員、皆川委員、浅原委員、五十嵐委員、石黒委員、小木曾委員、小磯委員、高田委員、前川所長

議 事：議事に先立ち、事務局より、「国立国語研究所運営会議規程」第5条第1項及び「国立国語研究所における教授及び准教授候補者内部選考内規」第8条による定足数の確認が行われた。

### <議事概要確認>

#### (1) 前回議事概要（案）について

議長から、資料1に基づき、「令和7年度国立国語研究所運営会議（第3回）議事概要（案）」について説明があり、原案のとおり了承された。

### <審議事項>

#### (1) 教授（研究系）の内部選考（昇任）について

人事委員会委員長から、資料2に基づき、第3回運営会議で審議の開始が承認された准教授の教授昇任人事について、人事委員会における審議結果の説明があり、同委員会から推薦のあった1名に対する投票を行った結果、教授昇任が承認された。

#### (2) テニユアトラック助教にかかる審査について

人事委員会委員長から、資料3に基づき、第3回運営会議で審議の開始が承認されたテニユアトラック助教の准教授テニユア付与人事について、人事委員会における審議結果の説明があり、同委員会から推薦のあった1名に対する投票を行った結果、准教授としてのテニユア付与が承認された。

#### (3) 教員（研究系）の公募について

所長から、資料4に基づき、研究系教員（令和9年4月1日採用予定）の公募実施について説明があり、原案のとおり了承された。

#### (4) 教員（次世代言語科学研究センター）の公募について

所長から、資料5に基づき、次世代言語科学研究センター教員（令和8年10月1日採用予定）の公募実施について説明があり、原案のとおり了承された。

#### (5) 令和8年度客員教員について

所長から、資料6に基づき、来年度の客員教員候補者について説明があり、原案のとおり了承された。

#### (6) 令和8年度人事委員会委員の選出について

所長から、教員公募のスケジュール上、来年度初回の運営会議開始前に選考を開始する必要がある

るため、本会議で人事委員会委員を決定してほしいとの依頼があった。依頼を踏まえて、議長から、資料7のとおり人事委員会委員の指名があり、原案のとおり了承された。

#### <報告事項>

##### (1) 次世代言語科学研究センター特任助教の公募について

所長から、資料8に基づき、次世代言語科学研究センター特任助教（令和8年10月1日採用予定）の公募を開始しており、来年度第2回運営会議（9～10月予定）にて選考結果を報告予定である旨説明があった。

##### (2) 所長候補者の選考スケジュールについて

議長より、資料9に基づき、次期所長候補者の選考スケジュールの説明と選考手続きへの協力依頼があった。

##### (3) 令和6年度実績外部評価報告書について

自己点検評価委員会委員長から、資料10に基づき、令和7年9月30日に外部評価委員会を開催し、決議された評価結果をもとに令和6年度の外部評価報告書を作成した旨報告があった。

##### (4) 令和8年度当初予算（案）等について

所長から、資料11に基づき、人間文化研究機構本部から令和8年度運営費交付金の当初予算配分（案）、及び令和7年度補正予算が示された旨報告があった。

##### (5) 研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業に係る機構特別研究員の雇用について

所長から、資料12に基づき、日本学術振興会の「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」に基づく研究員を令和8年4月1日付けで1名雇用予定である旨報告があった。

##### (6) 共同利用型共同研究の採択報告について

所長から、資料13に基づき、前回運営会議後、共同利用型共同研究（A）8件、共同利用型共同研究（B）2件、共同利用型共同研究（C）1件が採択された旨報告があった。

また、来年度から、現行の（B）と（C）を1つに統合した「共同利用型共同研究」と、（A）の後継であり研究経費を支援する「共同利用型共同研究(研究経費支援型)」に再編予定である旨説明があった。

##### (7) 国立国語研究所の活動について

所長から、資料14に基づき、研究所の運営・体制、イベントの開催状況、広報・社会貢献活動等、国語研の活動状況について報告があった。

##### (8) その他

###### ・次回開催日について

議長から、次年度の開催日時については、後日、管理部から日程照会を予定している旨説明があった。

最後に、委員長から、外部委員から一言ずつ意見をいただきたいとの提案があった。外部委員からの主な意見は以下のとおり。

次世代言語科学研究センターを始めとして、これまで取り組んできた多角的な研究の成果が着実に実を結んできていることを実感できた。また、国際的協業にも積極的に取り組んできているが、昨今の国際情勢の変化が懸念される。これまでの努力が無駄にならないよう引き続き取り組んでいただきたい。

E3P-Linguistics については、今後も期待したい。また、文部科学省が進めている AI for Science について、国語研がどのような対応を考えているのか教えていただきたい。

(所長)

国語研としても関係する提案が出てくると思われるので、所内会議等で応募を検討するよう周知している。また、次世代言語科学研究センターには AI の専門家がいるので、職員からの相談に応じるよう個別に依頼している。

報告のあった共同利用型共同研究だが、どのような基準で採否が決まるのか教えていただきたい。人文系というのは、成果を数値に置き換えることの難しいところがあり、数値にしやすい分野とそうではない分野がある。国語研が後者を進めてもらえると安心感を持てるのでお伺いする。

(所長)

運営会議の所外委員を含む3名に一定の判断基準に従って採点をしていただき、さらに、受入教員のコメントや、個人情報の取扱い等、明らかな問題が無いかを加味して判断している。また、問題点の指摘があり不採択となった場合でも、その内容を申請者に伝えて再応募を呼びかけている。

生成 AI による言語生成が拡大する中、人間によるものでは無い言語を研究することにどのような意味があるのか、どういった意識を持って研究をしていくのかということ、国語研を含めた全ての言語研究者にとって課題になってくる。それには新たな方法論が必要になると考えられ、次世代言語科学研究センターで基礎的研究を進めてもらえれば非常に心強く、また、期待している。

先程の審議事項で、言語教育学・言語社会学を対象とした公募が行われることになったが、今後の日本社会を考えると、これらの分野が重要になってくると思う。また、教員数の少ない国語研にとって、人事が鍵になると思うので、良い人材を採用して育てて貰いたい。

国語研が長く取り組んできた言語資源の研究成果が『シリーズ言語資源学』として刊行されたのは喜ばしい。また、若手研究者の話があったが、総研大に参画して3年経ち、国語研で研究をしながら育ってきた若手研究者が、所外の研究者コミュニティに波及していくという良い流れができつつあると思う。これまで以上に人材育成に力を注いでいただけるとありがたい。

外国語教育の観点からいうと、AI が人間の言語能力をどのように変えてしまうのか、身につけるべき言葉の力を変容させてしまうのか、動態調査のようなものを行って貰いたい。言葉の力が AI によってどのように変わっていつてしまうのか、それを食い止めるべきなのか、それとも、どこまでは良いのかといったことを外国語教育的に判断するのは非常に困難なので、そういうことを何か国として全体で考えて研究を進めていただきたい。

AI 関連で、特に言語発達の観点からいうと、今後、言葉を学ぶ子ども達が目にする書き言葉のほとんどが AI の生成した物、さらには、対話までが AI やロボット相手になることも考えられ、国語力を育てていく子ども達がどうなるのか懸念されている。今後の研究で、それらに対する提言ができれば良いと思う。是非、言語発達の面からも考えていただければありがたい。以上